

平成 26 年度第 2 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会

- | | | |
|-------|---|---------------------------------|
| ■日 | 時 | 平成 26 年 12 月 17 日（水）18：30～20：50 |
| ■場 | 所 | 市役所東棟 8 階 802 会議室 |
| ■出席委員 | | 7 名（欠席 2 名） |
| ■事務局 | | 高齢者支援課、子ども育成課、市民社会福祉協議会 |

1 開会

2 配布資料確認

委員の紹介

事務局より配布資料の説明

【事務局】各テンミリオンハウス運営団体のヒアリングの前に、子どもテンミリオンハウスについてご報告させていただきます。

【事務局】貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。今年度 5 月 26 日のこのテンミリオンハウス事業採択・評価委員会で、子どもテンミリオンハウスあおばの廃止の方向について、お話しさせていただいたかと思えます。この後についてのご報告と今の状況についてご説明させていただきます。

平成 24 年に耐震の問題が発覚しまして、この委員会でも事業継続に関してご意見等いただきました。私共の方でもこのあおばに代わる事業所、機能がないということで、一定の簡易的な耐震補強を講じて、この間運用をしてきました。今年度の 7 月末に吉祥寺本町 3 丁目にすくすく泉ができまして、この施設があおばで行っている広場や、一時保育、さらにグループ保育といった機能を併せもつ施設として開所することができました。7 月の終わりから 3 か月ほどの間、あおばの代わりになるかということに注視してきたところですが、一定の運営については支障がないという判断に至りまして、あおばについては当初の予定のとおり今年度 3 月末をもって廃所としたいと思っているところでございます。

廃所につきましては、11 月に文教委員会で廃止の方向のご説明させていただきました。また、市報については 12 月 15 日号、それと併せて 11 月の中旬から一時保育の利用者、いわゆる登録会員への周知のお手紙等によりまして、あおばの廃所についてのご説明を申し上げているところでございます。

反応といたしましては、一時保育を利用されている方から、代わりの施設についてのご質問がございますので、すくすく泉のご紹介、また、繁忙期でそこが利用できない場合に

つについては、ひまわりママで行うサービス等のご紹介などをさせていただいております。

あおばは平成 13 年 11 月に開所し、この 11 月には満 13 年を迎え、本当に長い間子どもテンミリオンハウスとして事業を行っていましたが、施設の老朽化もございまして、廃所とさせていただく運びとなりました。

最終的な今後の方向ですが、今までの子どもテンミリオンハウスの事業については 2 月の末までで終了、3 月末には地域の方への感謝の意味も込めました感謝の集いのようなものを開催して終わりさせていただく予定です。また、1 月以降の利用につきましては、今までの感謝の意味も込めまして、可能な限り無料で行えるような形で実施していきたいと考えております。また、26 年度の決算報告に関しましては、来年度の委員会でしっかり報告させていただきます。この委員会では、この間ご心配をおかけいたしました、この年度末で一定の方向が示せたと思っております。ありがとうございました。

【事務局】 それでは、第 1 グループの 4 団体に入ってください、ヒアリングを行います。

3 議事

(1) 平成 27 年度事業計画採択

◆平成 27 年度運営団体事業計画ヒアリング

第 1 グループ (花時計、川路さんち、月見路、そ〜らの家)

【委員長】 みなさん、こんばんは。本日は、寒い中お越しいただきまして、ありがとうございます。5 分間の事業計画の説明と 10 分間の質疑応答を行います。では、花時計からお願いします。

【花時計】 27 年度の事業については、26 年度の事業を踏襲する方向で行いたいと思っております。事業の中のひとつに日々の講座がありますが、現在 21 人の講座ボランティア講師の皆様を支えられて、高齢者も講座を大変楽しみにしております。そして、毎日生き生きと過ごすことができっております。講師の最高齢の方は 88 歳で豊饒とされていて、講師をすることも生きがいの一つとなっているのではないかと思います。

花時計では、高齢者、乳幼児にそれぞれ担当を置きまして、会話を大切にしながらその方に合った細やかな対応を心がけております。また、地域社協や在支との共催事業を行う中で、地域の関係機関とつながりを深めながら、運営を行っております。

開所して以来、来年で 11 年目に入ります。ご利用者さんの平均年齢ですが、開所当初は 74 歳でしたが、現在は 79 歳をちょっと超えまして、5 歳も上がっています。そういった利用者さんとかかわっている中で日々感じるのは、自分をわかってほしい、自分のことを聞いてほしいという願いが強いのだなということです。花時計のポリシーでもありますホスピタリティに則って、ご本人の思いや気持ちに寄り添いながら、ご本人が穏やかな気持ちになれるように接してまいります。

【副委員長】 地域の居場所ということで、空いている部屋を提供するというのは、26 年度

からでしょうか？また、無料での提供は、今後も続けていく予定でしょうか？

【花時計】当初から行っております。花時計も 1000 万円の補助金では厳しいところがありますが、利用者さんに気軽に利用していただくために、値上げもせず、頑張っで無料でやっいていこうと決めました。

【副委員長】利用実績はいかがでしょう？

【花時計】地域の関係機関の利用というのは、地域のパトロールの方が主ですが、特に目立った利用はないように思います。

【副委員長】平均年齢が 5 歳上がっているということですが、例えば、自分をわかってほしいというという欲求を持っている利用者さんに対して、ホスピタリティ溢れる対応というのは、具体的にどのようなことをされていますか？

【花時計】自分の気持ちをわかってほしい、自分の今置かれている環境について聞いてほしいというように見受けられます。私たちは担当が必ずおりますし、他のスタッフもその方のお話を聞いて、その方が一時でも心が穏やかになるようにしております。例えば、2 世帯で住んでいても、なかなか自分の思いが通らないとか、ご自身の悩みなどを何度でも聞いてほしいということで、何度でもお話になるので、私たちも何度でも聞いて差し上げます。そうすると心が穏やかになって、お帰りになるといったことです。

また、一日いるというのは疲れるので、今まではムーバスやバスで通われていた方も、疲れたのでタクシーを呼んで、というようなことも見受けられるようになりました。

【委員】4 月から消費税が上がりまして、食料品なども値上げしていますが、運営上の影響はいかがですか？

【花時計】正直なところ、大変厳しいです。私たちは、ケーキ、プリン、あんみつと現在も 100 円で提供しております。それを例えば、非常に大きな器で提供していたプリンを小さめの器にして、数多く作っでお出ししたり、チーズケーキ等は今の 10 個以上は難しいので、シフォンケーキは 12 個に切るなど、何とかやりくりしています。心のよりどころ花時計、地域の居場所花時計と思っただけのように、ワンコインで気兼ねなく、お金をかけなくても来ていただけるように頑張っしております。

【委員】いろいろ工夫されているということですね。利用者さんの反応はいかがですか？

【花時計】先日初めてシフォンケーキを 12 個に切っでお出しした時に気を付けて見ていましたが、皆さんお気づきにならなかつたようです。プリンは器が小さくなりますので、前もって「申し訳ありません。諸事情によりカップが小さくなりました。」と、お断りをしてからお出ししました。

【委員】先ほど、高齢の方の聞き役に徹しているとおっしゃっていましたが、認知症が始まった方の聞き役をやるという事業はなかなか進んでいないように感じています。今後、そういった方や要支援の方の受け入れ先、居場所としてテンミリオンハウスも考えられると思います。居心地の良いところには皆さん集まりますし、そういう方がおひとりではな

く、何人もいらしたとき、また、増えてきたときの対応についてはいかがでしょうか？介護保険の改正もありますし、スタッフ 13 名とボランティアの方たちだけで対応できるか、今後の見通しはいかがでしょう？

【花時計】花時計は、元気な高齢者で、ご自分で通ってこられるという一応の括りがありまして、人数的なものもありますし、そういう方々が一度に押し寄せるといことは想定の中にはありません。広さの面から考えてもないだろうと思っております。そういった方が何人からっしゃっても、私たちはサポーター養成講座も受けておりますし、スタッフもそれぞれ配置しておりますので、できる範囲では対応していきたいと思っております。テンミリオンハウスは 10 名程度、今、花時計は高齢者 20 名、乳幼児 10 組程が平均ですが、それが目いっぱいというところではないでしょうか？役所の方でぜひやってほしいということであれば考えなければいけないと思いますが、そんなには押し寄せてこないと思っております。

【委員】あとは行政側で考えていただきたいと思えます。

【委員】今回の介護保険事業計画の改定の中にも書きましたが、介護予防や健康づくりというと、従来はマシントレーニングや運動機能の強化が重点でしたが、最近の学術的成果では、社会参加や社会貢献をする方が長寿になっています。先ほど講師の方の最高齢が 88 歳とおっしゃっていましたが、利用者だけではなく、スタッフや講師の方もいきいきとされている環境がテンミリオンハウスではないか、効果と意義をもう一度確認する時期に来ているのではないかと思います。

質問は、30～40 歳くらいのスタッフもいらっしゃいますが、スタッフや講師の方の開拓、新しい方の受け入れや確保の仕方について工夫をされていれば教えていただけますか？

【花時計】花時計でも来年度新しい講座を検討していましたが、習字の先生にお願いしましたところ、ボランティアでは難しいとお断りされてしまいました。有料となりますと、他のボランティアの方との兼ね合いもありますし難しい。こちらからお願いするとなると、全くの無料、無償のボランティアというのは、難しい環境になってきているのかなと感じたこともあります。といっても、講座に参加する方から参加料は一切いただいていませんので、ボランティア講師のお金で花時計の運営が成り立っているといっても過言ではありません。今後ボランティアの方をお願いする際は、無償でというのは難しくなってきたのかなと思っております。

若いスタッフについては、以前花時計を利用して、お子さんが幼稚園に入ったので運営に加わりたいという方もいます。時間的な制限があるので、運営そのものには関わっていませんが、食事の準備の 10 時から 2 時ということでやっていただいています。花時計のスタッフとしては、50 代くらいの方がベストかと思っております。30 代、40 代の方ですと、まだお子さんが小さくて、運営に加わって一緒にやっていくのは、花時計においてはなかなか難しいと思うところもあります。例えば、講座発表会などは土曜日に行いますが、

幼稚園や小学校がお休みだからということで、なかなかそういったものに参加するのは難しいところがあります。ということで、スタッフ7名ですべて運営を行っております。今日の評価委員会で何かお伝えすることはありますかとスタッフに聞いたところ、頑張っておりますとお話してください、ということですので、付け加えさせていただきます。

【委員長】ありがとうございました。では、時間になりましたので、次に川路さんちをお願いします。

【川路さんち】川路さんちは、先月11月に15周年を迎えました。オープンした頃から見えになっていらっしゃる方も何人もいらっしゃいます。15年と一口に言っても、10年ひと昔とすると、ひと昔半も前から週に2、3回ずーっと続けて通っているというのは本当にすごいことだと思います。車が迎えに行くわけではなく、自分で通ってくる、それを長く続けていただいて、「川路さんちがあるから、私たちはこんなに元気で年を取ることができた」と、毎日のように言ってくれるので、本当に私たちもやりがいがあります。それでも、85歳以上が3割くらいになりますので、風邪をひいても今までは2、3回だけのお休みだったのが、1週間、2週間と長引いたりして欠席が目立ってきました。また、自分の力では通ってこれないので、デイサービスに代わられる方も徐々に出てきました。今までは、人数が増えると狭いところにいっぱい、台所も狭くてお昼も大変なので、積極的な募集はしていませんでしたが、今度、西久保一帯全戸配布の西久保コミセン便りに募集の記事を出させていただくことになりました。高齢者が多いということは、変わらない生活が良いということで、27年度も26年度と同じ様に続けていきたいと思っています。新しい方にとってはプログラムが魅力でいらっしゃるのですが、募集をかけていらしてくださる方が多ければよいのですが、もし応募が少ないようでしたら、新しいプログラムも考えていこうと思っております。

【委員長】ありがとうございます。何か質問はございますでしょうか？

【副委員長】85歳以上の方が3割で、90歳以上の方が9名ということですが、皆さんがいつまで元気に川路さんちに来られるかと記録を作っていたきたい。あんまり変わらないでとおっしゃっていましたが、平均年齢が上がってくると自ずと変わってくる場所はありますか？

【川路さんち】変わってくるのは、私たちの仕事が増えるということでしょうか。今まではいらして自分でお茶を入れていた方たちが、このごろはやっと到着すると疲れてしまって、私たちスタッフがお茶を入れて差し上げなければいけないし、認知症が少し入った方は、普段はあまり感じなくても、お昼に電話をすると、「私、今日は行く日でした？」とおっしゃることがあるなど、そういうところが変わったかなと思う点です。

【副委員長】非常に大変ですね。スタッフを支える人がいないと。

【川路さんち】こちらもちょうど歳を取っていますので。

【委員】消費税が値上げになった影響はいかがでしょうか？何か工夫していることはありますか？

【川路さんち】スタッフが大変な努力をしています。お昼の材料を買う際に、安いお店を探して、ただし、質を落としては何にもならないということで、少し遠い場所でも、肉はこちら、野菜はこちら、とかなり時間をかけています。これは前日なので、時給には入らずボランティアですが、そういった努力がすごいと、何とかしてあげたいと思っています。

【委員】火曜日はプログラムがなく、昔から自由に過ごしていただくことになっていると思いますが、先ほどプログラムによって新しい利用者さんが参加されるということでしたが、どのプログラムが人気がありますか？

【川路さんち】編み物とコーラス、書道が人気があります。何にもプログラムがない日にもこんなにたくさんの方がいらっしゃるんですか？と言われることもあります、何もしなくても、皆さんとお食事をする、おしゃべりをするということが何よりも楽しみでいらしています。コーラスなどはあまり高齢になると遠慮される方が多いので、あまりプログラムが多いのも良くないし、これからはそれが課題になっていくのかなと思います。

【委員】両立していくことも大切ということですね。

【委員】プログラム講師の方は無償の方が多いと思いますが、例えば、今、介護保険事業計画で検討しているのは、地域支え合いポイントといって、地域の高齢者のために貢献していただくとポイントが付与されて、そのポイントが貯まると、何に換金するのかはまだわかりませんが、お金に換金するのは武蔵野市的ではありませんが、もしそういう制度が導入された場合、講師の方とか支え合い活動は増えそうでしょうか？それともやはり現金の方が良いのでしょうか？

【川路さんち】川路さんちの講師の方々は、「私たちも楽しませていただいて」と、おっしゃってくださるので本当に恵まれていると思います。

【委員】消費税が上がりましたが、おやつ代は別にするとといったような検討はされていますか？

【川路さんち】利用料を 100 円いただくことにしましたので、今のところ考えていません。

【委員長】ありがとうございました。引き続き、そ~らの家お願いします。

【そ~らの家】そ~らの家は、26 年度の新しい事業を 27 年度も引き継いで行っていきたいと思っています。ひとつは、利用者や地域向けのわらべ歌の会ができて、毎月 1 回東保育園の園児がやってきて、利用者さんと地域の方とわらべ歌やお手玉を使ってのお遊びを行います。これは地域の方向けといっても、お母さんと子ども、赤ちゃんが参加して、和やかに行っていきまして、これは 27 年度も続けたいと思っています。それから、今年の 4 月に近くに整形外科ができて、そちらの理学療法士の方が、隔月で講演会をしてくだ

さっています。内容は毎回違って、それも楽しみのひとつとなっています。これは、コミセン便りにも載せていますので、地域の方も参加してくださっています。土曜日の麻雀は定着しまして、最初は混乱がありましたが、今は9時半開始を守ってやってくださっています。こちらも来年度も続ける予定です。

先ほどから消費税の話が出ていますが、来年度の予算作成の際も増税するかどうか最後までわかりませんでした。1年半先送りということで、8%のままで提出しています。みなさんもそうですが、厨房のスタッフが本当に一生懸命買出しをしています。安売りの情報があると全員にメールを出しまして、できるだけ買ってきてもらうなどの努力をしています。値上げもせず、おやつ付きで500円というのはとても捨てがたく、ワンコインで行けるそ~らの家が地域にあるというのは魅力的だと思います。「あなたたち頑張ったから、4月から100円上げたら？」と、おっしゃってくださる利用者さんもいます。でも、増税が少し先送りになったので、もう少し頑張れるかなということで、27年度もそのままに致しました。スタッフ全員が食品衛生の責任者の資格は持っておりますが、今年度はそのほかに2人が調理師の免許を取ることができまして、バランスのとれた食事を提供しようと頑張っています。

【副委員長】 わらべ歌が人気があるようですが、乳幼児親子の受け入れの項目に入れるほどの人数ではないということですね。

【そ~らの家】 はい。ただ、お友達を誘ってくださったりして、徐々に親子連れが増えていきます。周りには幼稚園や保育園に行っていないお子さんがたくさんいることもわかったので、まだまだ増えるのではないかと思います。

【副委員長】 職場体験については、小学生から大学生の受け入れをしているということですが、向こうからくるので受け入れているという形か、それとも、積極的に呼びかけをしているのでしょうか？

【そ~らの家】 積極的に呼びかけはしませんが、1回いらっしゃると翌年もお願いしますということも多いので、そ~らの家は他に比べて広いこともありますし、可能な限り受け入れをしています。

【委員】 利用者の平均年齢や年齢層はいかがですか？

【そ~らの家】 確かに上がってきています。当初から来ていらっしゃる方も、歩けなくなったり、施設に入所される方もいらっしゃいます。90代も川路さんちと同じく4、5人くらいはいらっしゃるので、そういった方たちが無理なく来ていただけたらと思います。来年は15年という節目でもあるので、そういった方たちと新しい方たちも加えた何かができたら良いと思っています。

【委員】 包括ケアシステムというのが今後行われますが、地域ケア会議のことは聞いていますか？

【そ~らの家】 出席しています。

【委員】 医師会でも各在支で会議を行うときにメンバーを出すことになっていますが、各地域で地域ケア会議があるときには、テンミリオンハウスの方も参加されると中身が非常によく見えてきて良いかなと思っています。先ほどの2団体には伺い損ねてしまいました。

【委員】 基本的にはすべて各エリアごとに入っています。

【委員長】 ありがとうございます。次に月見路をお願いします。

【月見路】 月見路の運営を始めて3年目になりますが、ようやく落ち着いてご利用者さんとの関わりや地域の団体とのつながりを持てるようになりました。それから、今年は夏休みに念願のキッチンの改修を行うことができました。2週間閉所をしたことで、利用者さんの戸惑いもありましたが、使いやすく衛生的なキッチンになりました。短時間で工事を進めていただきまして、関係者の皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

このようにお食事提供の環境も整いましたので、27年度の重点項目として、新たなランチの利用者さんをもう少し増やすような努力をしようと思っています。特に一人住まいの方に他の方たちとお食事をとってもらいたいということで、独居の方へのご案内の仕方を民生委員さんのアドバイスもいただきながら考えていこうと思っています。また、ランチの予約方法も、もう少し弾力的にしようと思っています。今までは前日までに必ず予約をお願いしていましたが、当日でも3食まで受けられるように少し余裕をもって作ろうと思っています。やはりご高齢の方は当日の体調によっても変わってくると思いますし、忘れてしまわれる方もいらっしゃるので、そういったときにも受け入れられるようにしたいと思います。

2つ目の重点項目として、多世代の方との交流を進めたいと思っています。職場体験やボランティア、実習などで、中学生、高校生、大学生などがわりあい多く訪れてくださっています。ご利用者さんたちも若い方が来られると非常に楽しそうにお話をされるので、もう少し受け入れても良いかなと思ひまして、27年度は地元の小学生も受け入れたいと思っています。小学生は学校の時間と月見路の多くの時間がちょうど重なっていて、ほとんど来ることはありませんが、夏休みや冬休みを利用して、小学生向けの単発のイベントを考えていきたいと思っています。具体的には月見路のボランティア講師の中で手芸や書道の先生がいらっしゃいますので、夏休みに小学生向けの手芸のサークルや書初め会などを考えています。このようにいろいろな世代の方に月見路を利用していただいて、ここでの触れ合いがきっかけになって、地域で会ったときに挨拶ができるような関係が自然と生まれると良いと思っています。

当初から月見路がどんなところか知ってもらいたいと思って、社福武蔵野の方をお願いして、ニュースレターのポスティングを続けてきております。その効果が徐々に表れているようで、ニュースレターを見て、お食事の申し込みをされる方やプログラムのお問い合わせ

わせをいただくようになっています。こちらは来年度も続けて配布したいと思っています。それから、これはニュースレターの予期せぬ効果でしたが、若い世代の方がとても興味を持って読んでくださっていることがわかりました。ニュースレターを読んで、スタッフとして働きたいと言ってくくださる方もいて、非常に嬉しく思っております。以上、27年度は独居の方への声掛けと定着、子どもを含めた多世代間の交流のきっかけづくりを重点課題として取り組んでいきたいと思っております。

【副委員長】手作りランチの利用者を増やしたいということですが、どのくらいが目標ですか？また、今はどれくらいですか？

【月見路】最大16食までは作りますが、今はそれほど申し込みがあるわけではなく、平均で8~10食、多い時が16食くらいで、まだ作る余裕があると考えています。時々麻雀の前に食べに来られる方がいらっしゃいますが、家で一人で食べるのとは全然違うとおっしゃってくださるので、他にもきっとそういうニーズをお持ちの方がいると思います。お声掛けをしても自分から足を向けていただくのはなかなか難しいと思いますので、何らかのきっかけがあって民生委員さんのところに来ていただくとか、初めてのご利用者の日みたいなものを設けるなどを考えてみたいと思っています。

【副委員長】一人暮らし、特に男性の方をどうやって引っ張り出すかというのは課題ですが、ぜひチャレンジしてってください。

【委員】消費税対策について、何か工夫があれば教えてください。

【月見路】ランチの食材費を節約していくのが一番大変です。先ほどもお話がありましたが、やはりスタッフが自転車でいろいろなお店を見て回って、できるだけ安いものを買っています。スタッフの気持ちが料理に表れています。体力を使いながら、今のところ頑張っております。

【委員】報告では男性のボランティアさんや利用者さんが増えてきているということでしたが、何か働きかけはされていますか？また、支出で来訪者賄で2万円とありますが、視察等でいらした方に何かをお出ししたりすることかと思っております。視察が多いと思っておりますが、視察受け入れ料を新設するのはいかがでしょうか？

【月見路】月見路の来訪者賄2万円というのは、見学の方というよりはお手伝いをしてくださるボランティアの方にお菓子やコーヒーをお持ちしたり、年に1回ボランティア講師の会というときにお茶菓子を出す程度です。お昼を無料でお出しすることはほとんどなく、視察の方にもいただいています。

男性に対しては特に働きかけをしているわけではなく、男性の方で月見路で1日ずっと過ごしてくださる方がいらっしゃって、一人そういう方がいらっしゃると他の男性も来やすくなるようです。残念なことにその方が少し体調を崩されてしまって、あまり長く過ごされなくなってしまっているのも、他に影響が出ないかと心配しております。カラオケと麻雀、詩吟の会は、男性の参加者が多くいらっしゃいます。

【委員長】ありがとうございました。

◆平成 27 年度事業計画運営団体ヒアリング

第 2 グループ（くるみの木、関三倶楽部、きんもくせい）

【委員長】それでは、第 2 グループの事業計画説明をお願いします。5 分間の説明と 10 分間の質疑応答という形を取らせていただきます。では、くるみの木からお願いします。

【くるみの木】私たちワーカーズどんぐりは、昨年テンミリオンハウスくるみの木の運営について 26 年度からの運営の事業採択をいただき、気持ちも新たに 4 月から事業をスタートいたしました。今くるみの木では一日、約 30 名の方にご利用いただいております。平均ですが、午前午後の各プログラムに 10 名前後、ランチに 20 名いらっしゃいます。そのうちランチに毎日のように来てくださる方が 10 名ほどいらっしゃいます。一時は椅子もランチも足りなくなるほどでしたが、ここ半年ほどの間に、くるみの木開設当初から来ている方のうち数名、体調や境遇の変化があり、来られなくなる方も出てきています。6 年が過ぎて少しずつ顔ぶれが変化してきていると感じています。

今年 4 月からおにぎりとお味噌汁の土曜ランチを始めました。おかげさまで大変好評です。毎週 12、3 食が予約でいっぱいになっています。お断りする日も出ていますが、土曜日のスタッフの確保が厳しいため、27 年度も 12 食を予定しています。

地域とのつながりも引き続き大切にしていきます。中央福祉の会には毎月の定例会に参加、りんどうの会でもお手伝いに参加しています。中央福祉の会のりんどうの会と吉西福祉の会のあじさいひろばからは、年に数回、くるみの木の看板プログラムの自立生活体操の出張講座の依頼があって、来年度も何う予定です。中央コミセンの夏祭り、文化祭にも毎回チヂミの販売で参加して、地域の方へくるみの木を宣伝しています。お隣の赤十字保育園のお誕生会にも毎月のようにコーラスや手話の先生、利用者の方々と一緒に参加して、楽しい時間を過ごしています。

27 年度の事業計画を立てるにあたり、一番の問題は日替わりランチの料金でした。日替わりランチは開所当初から 500 円で提供してまいりましたが、食材の値上がりが響き、今年度は食材費が予算をかなり上回ってしまいました。安心安全な食材の品質を重視して、これまでどおり地域の個人商店とのお付き合いを続けていくために、来年度より 600 円に値上げすることを決定しました。今年 4 月にプログラム代を 100 円から 200 円に値上げした際には、利用者の皆様に快くご理解していただきました。続いてのランチの値上げは大変心苦しい決断でしたが、今まで以上に心を込めた調理とスタッフの心遣いでご理解していただけるように努めたいと思います。

27 年度特に力を入れて取り組むことは、次の 3 点です。1 点目は、まだくるみの木をご存じない方々に来ていただけるよう、地域でプログラムのポスティングをしたり、民生委員の方にもご協力いただくなど、広報活動に今まで以上に取り組みます。2 点目は、まだ

まだお元気で、プログラムに参加したり、お食事やおしゃべりをするためにくるみの木に行きたいけれども、一人で歩いて来るのが不安になってきた方に対して、何か支援する仕組みづくりを検討したいと考えています。3点目は災害時の緊急対応マニュアルを見直し、利用者と共に避難訓練を行いたいと思っています。

【委員長】ありがとうございました。何かご質問はありますか？

【副委員長】最後におしゃったお一人で来られない方への支援体制というのは、テンミリオンハウスのコンセプトとは違いますが、そこからはみ出しても何か支援をしようということでしょうか？

【くるみの木】テンミリオンハウスの役割というのは、介護予防ということが大きいと思いますが、いらして他の方々と交流をしたり、何かに参加したりすることが本当に介護予防になっていると感じています。重度になった方は難しいと思いますが、具体的にはまだ考えていませんが、ちょっと行き帰りをご一緒したり、サポーターを頼むとか、どんぐりで何か支援をするとか、そういったことです。とてもお元気でいらっしゃるのに、来ることが少し不安なだけで、来ることをあきらめていらっしゃる方々を最近多くお見受けするので、見ていてまどろっこしく、何かできないかと思っているところです。

【副委員長】うまい方法を考えてください。

【委員】ランチの料金の100円値上げについては、消費税や食材費が上がっている影響もあると思いますが、ランチの値上げを決めた経緯について教えてください。何かアンケートを取ったりしたのでしょうか？

【くるみの木】アンケートは取っていません。スタッフで何度も何度も話し合って決めました。食材費が値上げしていて、事業計画作成時点では消費税も値上げの可能性もありましたし、このままでは立ち行かないと考え、値上げを決めました。

【委員】来所が困難になった利用者に関して、介護保険に入る可能性があると思いますが、認知症がなくてそこまではいかない方の受け皿を市も考えていると思います。武蔵野市はこの辺の事業が多いと思いますが、私はテンミリオンハウスもその一つだと思っています。その辺は行政側と相談して決めていけばよいのではないかと、そこに解決策が見いだせるのではないかと思います。

【委員】絶対自力通所可能な方じゃないとテンミリオンハウスに通えないということではないと思います。例えば介護保険でも小規模多機能という新しいサービスができて、通いもできるし、泊りもできるし、訪問もできる。なぜ武蔵野市に小規模多機能が参入しないかということ、テンミリオンハウスがあるからだと思います。関三倶楽部さんも通いも泊りもやってらっしゃる。現在、全国的に小規模多機能で問題になっているのは、通いばかりで、ほとんど訪問に行かない、通いと泊りだけのサービスになっているということです。今度4月からは通いだけでなく訪問にも力を入れるという形に変わりますが、テンミリオンハウスもお迎えに行くというのがあっても良いと思います。ただ、それがコストや人

件費の面で見合うかどうか。それについては、送迎加算や送迎サービス料というのを取っても良いだろうと思います。デイサービスだって、送迎すれば送迎加算が付きます。

元気なままでいようとするのを介護予防といいます。これからは重度化予防、これ以上重度にならないように、現状を維持するためにどういう取り組みをすれば良いのかが、今後の武蔵野市の大きな課題になってくる。75歳以上がどんどん増えていく中で、介護予防介護予防と言って、いつまでも元気でびんぴんというわけではないけれども、でも寝たきりにはならないとか、でも介護保険のサービスは受けなくても何とか自分で通うことができるといった点で、テンミリオンハウスは有効かなと思っています。厚生労働省にうるさく言われる運営基準はないでしょうから、そこは自由でも良いと思います。ただ、本当にサービスが必要になった時には、くるみの木さんの場合には、高齢者総合センター在宅介護支援センターと本町在宅介護支援センターと連携をとっていただいていると思いますので、本当に大変だったらご相談いただいて、スムーズに介護保険のサービスを受けていただくような連携を取っていただけたらと思います。

【委員長】ありがとうございました。では、関三倶楽部お願いします。

【関三倶楽部】関三倶楽部の今年は非常に大変な年になりました。大黒柱であり、看板娘でもあった小河原が体調を崩し、2月には入院し、6月には退職しました。このままどうやって関三倶楽部を続けていったらよいか非常に心配しました。しかし、今までのスタッフが小河原がいなくても立派にやってくれたので、何とかしのぐことができました。来年1月からは、和智が責任者として正式に就任することになりました。現在は、小河原が月に数回ボランティアで関三倶楽部に来てくれて、和智の教育係をしております。今は和智もアルバイトとして毎日のように関三倶楽部に来て仕事を覚えていますし、介護の経歴は長いので大丈夫だと思っています。来年度ですが、和智がしっかりと関三倶楽部を引っ張っていけるようになったら、中途半端になっていた何でも相談を再開しようと思っています。関三倶楽部というのは今までいろいろなイベントを行うということではなく、利用者様に楽しく過ごしていただいて、無事にお帰りいただくということを第一の目標としていましたので、来年度もそれをそのまま継続していきます。

最近の状況を見ていて感じたことは、介護保険の訪問介護が縮小されて、認知症の方がデイサービスに流れていて、週に5回6回とデイサービスに行かれていて、高齢者が非常に疲れきっている。どうも関三倶楽部にレスパイトに来ているような方もいらっちゃって、月に定期的に4、5日泊まってゆったり過ごして、またデイに帰っていく、というような感じの人が何人かいるのではないかと最近は思っています。小河原色から、和智の色が加わってとても複雑な関三倶楽部の色になると思いますので、楽しみにしててください。よろしくお願いします。

【委員長】ありがとうございました。いろいろ大変な時期もあったようですが、頑張っ

やっていたきたいと思います。

【副委員長】27年度の事業計画のその他のところで、介護講習の再開とありましたが、介護実習という言葉も出てきていますが、違うものでしょうか？

【関三倶楽部】先生に来ていただいて講義をしていただく講習と、実際におむつ交換の方法などの実習を行うということです。

【副委員長】高齢者が疲れ切っているということですが、そんなにデイサービスが多いのでしょうか。

【委員】ショートステイは年間400名くらいということでしたが、実人数は何名くらいですか？また、年齢は上がってきていますか？

【関三倶楽部】実人数は25名から30名くらいです。年齢はとても上がってきていて、80代、90代の方が非常に増えています。前に比べて90代が何と多いことかと思います。長く来ていらっしゃるって、90代になってしまわれた方が多いですが、みなさんとてもお元気でいらっしゃいます。

【委員】そういった方たちは介護保険のサービスも受けてらっしゃるということですか？

【関三倶楽部】もちろんです。デイサービスは行かされてしまうということもあり、ご本人は行ったら楽しいこともあるとは思いますが、肉体的にはみなさんかなりお疲れのご様子です。関三倶楽部だと全くマイペースに過ごしていただけるので、休養に来ているのではないかと思います。

【委員】過重労働ではありませんか？仕事の内容として、年配の方を泊りで預かるというのはとても気を遣いますし、夜中に起きなきゃいけないこともあると思いますので、そういった点では大変ではないかと思います。

【関三倶楽部】小河原自身が夜泊まるということではありませんが、ただ、その責任を負うという点では過重労働だったかもしれません。

【委員】くれぐれもお気を付けください。

【関三倶楽部】全く離れてしまうということではなく、陰ながら応援していきますので、よろしくをお願いします。

【委員長】入浴サービスについては年150日とありますが、一日1件以上ということもあるのでしょうか？

【関三倶楽部】入浴だけに来ている方はお1人かお2人ですが、ショートステイには入浴はつきものですし、関三倶楽部は可能な限り毎日お入れしているので、泊まっている方2人と他に入浴だけの方がいらっしゃれば、3回の入浴となります。ただ、通常の入浴と違ってみなさん全介助で入られるので、2人掛かりですし、普通の入浴よりは時間もかかります。

【委員長】2人掛かりというのは、浴室が狭くて大変でしょう？

【関三倶楽部】あまり広いのも怖いので、あのくらいの狭さがちょうどよいです。

【委員長】ありがとうございました。では、最後にきんもくせいさんお願いします。

【きんもくせい】10月1日から施設長になったばかりで、いきなり27年度の事業計画を提出することになりまして、最初は動揺しましたが、きんもくせいがどのような施設かを見直す、また、これからどうしていこうかを考える良い機会になりました。長いキャリアのあるスタッフともたくさん話をし、また、桜堤在宅介護支援センターの方ともきんもくせいの位置づけについて話を聞いたり、武蔵野市でのテンミリオンハウスの位置づけなども私なりに勉強をして、みんなで事業計画を作りました。私は9月までは東久留米市の高齢者がたくさん来られるコミュニティ施設にいたものですから、テンミリオンハウスのことは存じていましたが、実際にこちらに来てみると、本当に地域に根差した素晴らしい施設で、ここを運営するというのは幸せで恵まれていると思いました。そこで、27年度は、どうやって地域の方々とつながっていこうか、ということに一番力を入れたいと思いました。スタッフには地元の間人がありますが、特に27年度は外に出て積極的に地域の方々とつながっていく努力をしていこうと話しました。

どこも同じ課題を持っていると思いますが、引きこもりがちな高齢者の方にいかに敷居を低くして来ていただくきっかけづくりをするかということ、きんもくせいに来て感動したのは、特に食事で、みんなでランチを食べてたわいのない話をするこの大切さ、毎日来られる90代の方と顔を合わせておしゃべりをするこの幸せを感じております。今は毎日来られる方が2名で、あとは曜日ごとにいらっしゃいますが、こういった方々に、もっときんもくせいを知っていただいて、もっと足を運んでいただくにはどうしたらよいかをみんなで話し合いました。地道に地域に出向いて、ポスティングをしたり、声掛けをするというのは、民生委員の方からもアドバイスをいただきました。民生委員やケアマネのみなさんは、一番地域の方をご存じということで、そういう方たちに声をかけていただく努力をしようと話しました。男性高齢者の方に来ていただきたいので、そのために囲碁や俳句、句会などなら来ていただけるのではと思ひまして、そういったプログラムも考えていこうと思ひます。地域の方にこちらから積極的に声をかけて、きんもくせいを作っていく協力をしていただく体制を今まで以上に作っていこうと話しております。

具体的に一つ大きなことがございまして、断腸の思いで利用料を100円いただくことになりました。1月から3月にかけて、その利用料はどうして必要かということを利用者さんに丁寧に説明して納得していただくようにして、4月から始められたらと思ひています。理由としては、ランチの食材費、非常勤の方の最低賃金の値上げ、水光熱費がかなり上がってきているので、利用料をいただくことで何とかやっていこうと考えております。

【副委員長】消費税対応に関して、値上げをされるのは、きんもくせいさんとくるみの木さんで他は何かやりくりするということでした。特にどちらにするということではありませんが、自分たちのグループでどこまで賄えるか、そういった意味では実験台みたいな

形にもなりますが、やっただくのは構わないと考えています。

興味深かったのは、新しい事業の中で、ケアラズカフェというのがありましたが、この計画について少し説明していただけますか？

【きんもくせい】スタッフだけでできることではないので、福祉の会の皆さんにお話をし、まずは思いのある方たちと相談会を開きたいと思っています。先日くるみの木さんの家族会に参加しましたが、とても素晴らしい場を作ってらっしゃいました。介護をされている方にとっては、小さな地域の中でそういった場所がたくさんある方が良いと思いますので、正直にざっくばらんに話せる場を作りたい。そのためにはファシリテータになってくださる方を探さなければいけないということもありますが、これは個人的にも絶対やりたいと思っていることでもありまして、スタッフの賛同も得て、27年度の計画に加えさせていただきます。

【委員】今回施設長が変わったのは、法人としての人事異動でしょうか？

【きんもくせい】前施設長は東京全域を対象とした身分で働いておりまして、いずれどこかで異動の可能性もありますし、また年齢も定年に近いということもありました。きんもくせいはまだ5年間の残りも長いものですから、ここで腰を据えて事業をじっくり作っていく施設長が必要という現場のスタッフからの強い要望もありました。来年また制度改正もあって、地域支援事業の部分が非常に大事になるということもありまして、一定の経験をもってやってきた人材を新しい施設長にということで、年度途中ではありますが下期に向けて新しく着任してもらいました。

【委員】細かいところですが、利用料が100円で、年間利用者数の見込みが6000人にもかかわらず、予算の利用料収入が5400人分となっているのはなぜでしょう？

【きんもくせい】食事だけに来られる方は500円払っているのにさらに100円というのは申し訳ないというのと、食事だけの方は毎日来られる方も多くて、大体の数字で食事に来られる方を除くとこのくらいの数字になるかなということで出させていただきました。

【委員】他の施設は食材費がきついということで安いお店を探したりするけれども、実際には値上げするところもあります。利用するだけの人と食事をする人が若干不公平かなと思いましたが、説明していく上で配慮された方が良いでしょう。

【きんもくせい】これから3か月かけて利用者さんに納得していただけるように考えていきたいです。

【委員】去年もお聞きしましたが、資金計画書の支出の部で非常勤職員給与のその他非常勤スタッフ賃金のところで、本部アドバイザー148,500円×12か月で年間1,782,000円とあります。事業体として仕方ないのかとも思いますが、武蔵野市民の税金を1,000万円投入して、本部に1,782,000円ということであれば、実質的には820万円くらいでテンミリオンハウス事業をやっていることになります。この本部アドバイザーの方は、週に何回テンミリオンハウスの運営に関与されているのでしょうか？非常勤スタッフは最低

賃金の 888 円で働いてもらって、武蔵野市民のために貢献していただいておりますが、本部アドバイザーの方の貢献度がはっきりしない。その点どうなのでしょう？

【きんもくせい】実際にきんもくせいに足を運んで時間や日数で算出している金額ではありません。本部での会議や事業のサポートも含めての総務や経理で、本部長や事務局長やエリアマネージャーは組織運営の中でサポートするという部分を年間で換算した時に、だいたいこれくらいという算出をしております。

【委員】おそらく、どこの施設も運営補助の範囲内で経理もやってらっしゃるし、事業運営もやってらっしゃるし、事業計画を作ったり、イベントをやったりしています。これ以外に、経理の担当の方を雇ってらっしゃるわけではなく、みなさんでやってらっしゃることが地域住民の互助の仕組みです。お聞きしたいのは、このアドバイザーの方が具体的に何日くらい経理やイベントやサポートでいらっしゃっているのかです。それがないのであれば、補助金の出し方を検討しなければならないかもしれません。

【きんもくせい】総務や経理のスタッフは実際にきんもくせいに来て仕事をするのは、決算など大きなこと以外は基本的にはほとんどありません。本部の中で月 3、4 日、それだけの日数を割いて、テンミリオンハウスの業務にあたっています。そのほかの管理職部門の本部長、事務局長、エリアマネージャーは、月 1 日ないし、2 日、何かしらの形できんもくせいに関わっているということで、これが実際に来ている日数というわけではありません。

【委員長】月額で予算化するという事は、月何回かということが明確に出てこないとおかしいと思います。

【きんもくせい】月の業務の流れとしてはそういった形が本来だと思いますが、年間で考えると集中する月と、そうでない月とばらつきがあります。今後の予算の立て方については、きちんと明らかにしてやるべきだと思います。

【委員長】予算の立て方、計上の仕方を検討してください。本部長は会議の時に来まして…、というようなことだと、全くその性格がわからない。

【委員】これは外すべきではありませんか？理由は、本部は本部の職員であってとして給料をもらっていて、本部の仕事をしている。それをこちらにつけてお金を引っ張ってくるのは、極端にいうと、武蔵野市の市民の税金をさらってきている。他のところは自分たちのところでそれをきちっとやっている。アドバイザーとしての名目は成り立たない。運営が例えば 10 か所あったら、それをまとめる人の給料は本部から出るべきであって、ここに付けるべきではない。

【きんもくせい】法人の考え方としては、本部は収入を生み出さないのです。

【委員】収入を生み出さないということと、武蔵野市民の税金を使うということとは別物で、ここに付けてしまっはまづい収支計算ではないかなと思います。働いている職員について、その事業体の中でだけ収支計算を行うというのが正しい。本部がいろいろなもの

を統括するのであれば、本部がお金を出すべきもので、ここから出すべきものではない。お門違いです。

【きんもくせい】わかりました。他の自治体では認めていただいている部分もあります。

【委員】委託ならわかりますが、補助事業で本部の運営費まで出している自治体があるんですか？

【きんもくせい】本部の運営費ではなく、本部の人間がかかわった分として人件費で出しています。

【委員】そこは、きんもくせいに具体的に関与したということじゃないとおかしい。委託ならわかります。例えば、くるみの木や関三倶楽部で実際の業務にはほとんど関わらないけれども、コンサルやアドバイザーがいたときに、その費用を出せるのかどうか。補助事業というのは、住民の皆さんの互助事業に対して 1,000 万円出しているのです、その分 1,782,000 円を他の事業費で、テンミリオンハウスに貢献できるようなことに使ってもらった方が武蔵野市民としては良いのではないかと思います。書き方もありますが、今後お互いに検討させていただければと思います。それで良いという自治体があれば教えてください。

【きんもくせい】この件については、必ず持ち帰って検討します。あくまでもアドバイザー費ということではなく、直接関わるということで算出したいと思います。

【委員長】以上を持ちまして事業計画のヒアリングを終了します。

【委員長】それでは、27 年度の事業採択について議論をしたいと思います。一番気になりましたのは、きんもくせいの予算の立て方です。説明を聞いていても、具体性がなく、よく分からない。誰のための経費なのか、それを明確にするのが課題かと思っています。月額で計上するというのは、月何回出るからいくらになるといった積算をするはずで、この費用の扱いをどうするかというのは一つの課題だと思います。

【委員】委託費であれば、本部費を出すのはわかりますが、補助事業の場合は、コストベースでやってくださいというのが今は基本的な考え方です。法人の気持ちはわかりますが、補助事業に本部費をつけるというのは、考え方としてちょっとなじみません。

【委員】ちょっと厳しく言ったのは、利用料を 100 円取るということだったので、内部努力でできるのではないかと思ったからです

【委員】17%というのは少し高く、株式会社的なレベルです。社会福祉法人であれば、2～3%が普通です。収益事業で賄ってほしい。

【委員】後ろに座っていた団体の方は、おかしい、よくぞ言ってくれた、というように見えていましたね。

【副委員長】皆さんのお考えはわかりますが、今まで認めていたので、ここで切るというのであれば、何か根拠、基準を出さなければならないと思います。

【委員長】事務局ですとこの書き方だったかどうかわかりますか？

【副委員長】今まではずっとそうでした。アドバイザー費用が入っていました。

【委員】一番最初に制度設計したテンミリオンハウスと比べると異質なものではあると思います。本来であれば、境の地域の人たちが集まって運営するところで、他の団体が1円でも安いところだと努力しているのに、何もしない人が178万円持っていくのはおかしい。しかし、今更駄目というのも難しい。

【委員長】決算の段階で評価しない、というのは可能だと思います。計画としては認めるとしても、この部分については認めない、といった形です。

【副委員長】決算の段階で根拠を明確にすることにしたらいかがですか？

【委員長】それでは、きんもくせいについては、評価の段階でチェックするということが良いでしょうか？

【事務局】決算の際にその部分を明確にして提出すること、とした方がよろしいですか？

【委員】決算の段階で、経理でいくら、マネジメントでいくらというように積算根拠を明確にする、ということで良いのではないのでしょうか。

【委員長】では、きんもくせいについては、事業報告の際に積算根拠を明らかにすることとし、すべての団体について提出された事業計画で採択するということがよろしいでしょうか？

→委員一同了承。

(2) 平成27年度運営団体公募について

【事務局】資料4に基づき説明。

【委員長】このことについて何か質問はありますか？では、無いようですので、次に移ります。

(3) 平成26年度テンミリオンハウス事業採択・評価委員現場視察について

【事務局】資料5に基づき説明。

今年度は、1回につき見学者を5名程度に調整させていただき予定です。また、例年平日と祝日の2日間の開催としておりますが、来年度公募対象の川路さんちは祝日開所はしておりませんので、開催日についてご検討いただければと思います。平日2日間の開催とすれば、みなさん川路さんちの見学をすることが可能かと思えます。

【委員】川路さんちは、必ず全員が見学するというのでしょうか？

【副委員長】公募対象施設のため、全員見学した方が良いでしょう。

【委員】土曜日はいかがでしょう？

【事務局】平日と土曜日の組み合わせもできます。ただ、土曜日はスタッフが少ないので難しいかもしれません。平日2日でよろしいですか？

→委員一同了承。

(4) その他

【委員長】 その他について、何かご発言はございませんか？では、無いようですので、以上をもちまして、第2回委員会を終了いたします。ありがとうございました。

4 閉会

以上